

ONLY 1 オンリーワン 企業紹介

危険な山林作業の安全確保を！
10年をかけた「クローラスパイク」開発の道のり



スパイクの装着例。状況、機種に応じて1台あたり6~12個装着する。

地域の営みを支える鉄工所

有限会社川村鉄工所

“思い”を鉄で具現化する

かつて、秋田杉や木炭の一大生産地として林業で栄えた五城目町。その最盛期から鍛冶屋として、地域の暮らしを支え続けてきたのが川村鉄工所だ。“お客さまの思いを形にする”をモットーにどんな依頼でもとにかく自分の手で作ってみるその姿勢は、鉄の塊からハンマーひとつで製品や治具を打ち出し、形作ってきた祖父の代から受け継がれてきたものだ。3代目を務める剛仁さんにも、その腕と気概を見込んで多くの相談が舞い込む。「クローラスパイク」はそんな地元のエコノミクス関係者の“困った”という声から生まれたものだ。

「冬季の積雪や雨季でぬかるんだ山道での作業は常に危険を伴います。フォワーダ(積載式集材車両)用の滑り止めスパイクは市販されていましたが、外れやすい、壊れやすいという難点があり、コストと安全性の両面で作業者を苦しめていました。壊れた部品がいつも修理に持ち込まれるうちに、いっそのこと改良品を作ってくれないかと頼まれました。」

10年間の試行錯誤の末に

開発は想像以上に難航した。スパイクの強度を上げ過ぎるとクローラーを破損してしまい、強度を下げると壊れやすくなってしまふ。さらに運転しやすさと悪路走破性の両立も難題

だった。そうして1年間かけて考えた新型を冬季に試用するたび、新たな問題点が浮かび上がり、試行錯誤の年月を重ねていった。

強度、走破性、操縦性を満足する最適解に辿り着いたのは3年前。着手から10年目のことだった。外方向に突出したスパイク部が荒れた路面に食い込み、横滑りにもめっぽう強い。さらに1人でも着脱簡単なフレーム構造は、少数・単独の作業になりやすい秋田の林業従事者たちに喜ばれた。



全県、全国を見据えた改良を

地元で太鼓判を押されたスパイクだったが、評判が広がって、県内外で使用されるようになると、雪質や土壌の違いによって、期待通りの性能を発揮できないことが判明した。今後は接地面のシミュレーション解析を行い、さらなる進化形を模索する予定だ。

「秋田生まれのスパイクが全国各地で安心・安全のために活躍できれば嬉しいです。」

立ちちはだかる大きな壁を、何度も乗り越えてきた川村さん。求めてくれる人、喜んでくれる人がいる限り、川村鉄工所の挑戦は続く。



代表取締役
川村 剛仁
Takehito Kawamura

有限会社 川村鉄工所

〒018-1711
秋田県南秋田郡五城目町高崎字
雀籠下川原128-2
TEL.018-852-4741
<http://kawamura-iw.com/>

会社概要

建築金物やデザイン金物、裁断・溶接作業による一般加工まで、社員4名で幅広い仕事を行っている。注文製造・加工からオリジナル商品開発まで、相談に応じて何でも挑戦する。

